

経営協議会の学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組み
(令和5年度実施分)

令和5年度第2回経営協議会（令和5年9月14日）

○保護者や学生のニーズに応え、留学や英語力向上、留学生受入等大学のグローバル化を一層推進してほしい、という意見があった。

- ・優秀な外国人留学生の受入れ・定着・増大、と日本人留学生の派遣拡充、地域社会において大学を中核とする共生社会の実現など更なる本学の国際化を推進するためのプログラムを作成し、文科省支援事業「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」に申請し採択された。本プログラムでは、「地域共創・ダイバーシティ課題解決・レジリエント社会研究」の三位一体による実践的な多文化共生教育の全学展開」を掲げ、地域社会と連携し「内なる国際化」を推進していくこととした。

※参照 日本学術振興会 [「大学の国際化によるソーシャルインパクト創出支援事業」選定事業一覧](#)

令和5年度第4回経営協議会（令和6年1月25日）

○統合報告書は読み手の立場を考え、内容を精査するとともに WEB 版や冊子体の媒体を効果的に使い有効に活用してほしい、という意見があった。

- ・統合報告書については、読み手の視点に立った情報発信を強化するため、以下の工夫を行った。
 - (1) 卒業生と学長による対談企画を特集記事として掲載し、卒業生の具体的なキャリアパスや卒業後の大学との関わりを明確に示すことで、学生や外部ステークホルダーにとって将来像をより鮮明にイメージできる内容とした。
 - (2) 紙面構成についても一新し、インフォグラフィックやビジュアル要素を積極的に活用することで、視認性と可読性の向上を図った。加えて、読者が必要な追加情報や関連データに即時アクセスできるよう、各ページに QR コードを配置し、Web との連携を強化した。
 - (3) 他機関への訪問時には冊子版を積極的に配布し、直接紹介を行うとともに、大学公式 HP 上のチャットボットにも統合報告書の案内機能を新たに実装した。これにより、Web を通じて本学にアクセスする多様な利用者に対しても、統合報告書の効果的な周知・活用を促進する仕組みを構築した。

※参照 [統合報告書 2024](#)